

かつての石工たちに想いを馳せる石仏づくり



▲ノミと金槌を使ってミニ石仏づくりに取り組む参加者。

五百羅漢がある羅漢寺（北条町北条）の境内で、1月21日から3月17日の毎週土曜日に石彫り体験講座が開催され、市民ら10人が受講しました。

受講生が制作に挑んだのは高さ30cm・幅10cmほどのミニ石仏。北条町東高室にある高室石の石切り場跡で石材を入手し、ノミと金槌を使って毎週こつこつと彫り、最終日には個性的な石仏を完成させました。

作品は4月16日（月）から29日（日）までアステアかさい3階ウォールギャラリーで展示されます。

市内に勤める外国人と異文化交流



▲中国籍の2人を囲み談笑する児童たち。

泉小学校で2月24日、市内事業所に勤めるブラジル・中国の従業員4人と5年生46人が異文化交流をしました。

児童たちは、練習してきたブラジル語と中国語で1人ずつ自己紹介を行い、体育館でなわ飛びやゲームなどをして、すぐにうちとけました。その後、教室で給食と一緒に食べ、お互いの文化について積極的に質問し合うなど、異文化への理解と交流を深めました。

東日本大震災の犠牲者を追悼



▲式典の最後に宇仁幼稚園児14人が東日本大震災の復興応援歌「やっぺす石巻」を合唱。

東日本大震災の発生から1年を迎えた3月11日、アステアかさい多目的ホールで犠牲者を追悼する式典が開かれました。

市民ボランティアらが支援に入った宮城県南三陸町の佐藤仁町長のビデオメッセージが紹介されたほか、地震発生時刻には被災地に向かって黙祷をささげました。また、子どもたちの合唱、ボランティアの報告などが行われ、参加者は、復興への息の長い支援を誓いました。

丸山公園に桜の木を植樹



▲桜の木を一本ずつ丁寧に植樹。

今年結成45年を迎える加西北条ライオンズクラブ（山下公明会長）の会員30人が3月11日の早朝、丸山総合公園（北条町西高室）の敷地内に桜の木35本を植樹し、市に寄贈されました。

これは、「ライオンズクラブ国際協会」の国際会長が提唱する、100万本植樹キャンペーンの一環として行われたもので、地域での環境保護に貢献することを目的とした奉仕活動です。

鉄道テロを想定した連携対策訓練



▲避難中にけがをした乗客役の男性を担架で運び出す消防職員。

北条鉄道は3月16日、市、加西警察署、北はりま消防本部と合同でテロを想定した訓練を行い、関係者約50人は、迅速的確な行動と連携を確認しました。

不審な荷物が置かれた車両が、北条町駅に到着したとの想定で実施。車外へ避難する際、けがをした乗客役の男性を消防署員が応急手当を施し、救急車で搬送、その後、重さ約30kgの防護服を着た機動隊員が、特殊用具を使って車内の不審物を持ち出し、爆発物の処理車に収容するなどしました。

古法華自然公園で3時間耐久自転車レース



▲コースを駆け抜けるレース参加者。

古法華自然公園で3月20日、悪路走行が可能なオフロード自転車の3時間耐久レース大会が開催され、小学生から大人まで男女52人が参加しました。

レースは公園内に1週1.5kmの特設コースを設置し、制限時間内に何週走ったかを競うもので、個人の部で14人、走者の交代が自由な団体の部で11チームが挑戦。午前10時から競技を開始し、午後1時までに優勝者は62週(93km)を走りました。大会は参加者の好評を得て、来年も同時期に開催される予定です。

自然と歴史をめぐるウォーキング



▲古法華自然公園内をゆっくりと歩く参加者。

今年で9回目の市体育協会主催「加西ロマンの里ウォーキング」が3月20日に開催され、市内外から約400人が参加しました。

参加者は、ぜんぼうグリーンパーク（善防中学校西側）から、日本最古の石仏がある古法華自然公園内をゆっくりと歩く初心者向け6kmコースと、国宝三重塔がある法華山一乗寺をめぐるから同公園を回る中上級者向け15kmのコースに分かれ、春の訪れを感じながら自然と歴史を満喫し、ウォーキング仲間との交流を深めました。

児童合唱団さるびあっ子が創立30周年



▲卒団生とともに合唱する「さるびあっ子」。

加西児童合唱団さるびあっ子（前田あつ子代表）の創立30周年を記念する定期演奏会が3月17日、市民会館文化ホールで開催されました。

同合唱団は昭和57年に創設され、毎年の定期演奏会や全国各地での合唱祭に出演、これまで約600人の子どもたちが活動してきました。平成23年度は19人が在籍し、市民会館で毎週土曜日に練習を重ねてきました。

今回の演奏会では、北条鉄道イメージソング「歌う風」などを披露、愛らしい歌声を会場いっぱいに響かせました。